

## ■事業報告■

### 第8回公開講座 (2017.11.15)



「大島青松園視察研一ハンセン病問題の今一」

日程 2017年11月15日(水)8:15~19:40

場所 国立療養所大島青松園

[香川県高松市庵治町 6034-1]

今回で8回目となる公開講座は、ハンセン病問題について理解を深めるため、現地視察として11月15日、香川県の大島青松園へ視察研修に行きました。会員団体や一般の方 23 名が参加し、講師には、徳

島県ハンセン病支援協会の十川勝幸会長をお招きしました。

参加者は早朝に中型バスに乗り込み、昭和町を出発、高松港へ向かいました。バスの中では、十川先生による学習会が開かれました。高松港に着くと官有船に乗り換え、航路大島へ向かいました。船上では厳寒の訪れを予感させる冷たい風が吹き付け、海には白波が立っていました。

国立療養所大島青松園のある大島は、本土から数キロと離れていない所に位置しており、周囲わずか 7.2 kmの小島です。地図で見ると“しゃちほこ型”をしていて、中央付近で括れている所があります。昔は2つの島だったものが、砂洲で繋がったそうです。ここは島全体が国立療養所大島青松園です。

青松園が開所したのは明治期の1909年、当初は「第四療養所」と呼ばれていました。政府が誤りを認めた、つまり1996年に「らい予防法」が廃止されるまでの約90年の間、ハンセン病患者を国家政策的に隔離するための施設だったのです。現在では102名の入所者の



方達が居ます。既に治癒した方達なので、患者とは呼ばれずに回復者、入所者と呼ばれます。ハンセン病は“らい菌”に由来する感染症ですが、現在は治療法も確立されています。

島に到着すると、松の並木道を抜けて、島の福利厚生施設である大島会館へと向かいました。参加者一同は荷物を置くと、療養所福祉室の元山さんが案内役を引き受けてくださり、早速フィールドワークへ出かけました。

初めに訪れたのは納骨堂です。青松園で亡くなられた多くの方がここに葬られています。次に進むと、鎮魂の碑と呼ばれる石碑がありました。胎児を祀った碑です。優生保護政策は多くの尊い命を奪ってきました。今年度、連合徳島が主催した部落解放・人権講座の中で、四国





大学の関口准教授が説いていた、近代史の視点から見た差別、優生思想や正政治の話を想起させます。

島の西側にある小路は遍路道と呼ばれ、やや急な勾配を上ると火葬場があり、その先に見晴らしの良い石畳の広場に出ました。広場の中央には小石を積み重ねたモニュメント「風の舞」が

ありました。「死後の魂が風に乗って、島から解き放たれますように」との願いが込められています。

島の反対側へ向かうと、キリスト教の教会や神社、寺院などがありました。その先に進むと東岸の開けた場所へ出ます。広場には休憩所のようなものがあり、遠目には東屋の中に手洗い場があるように見えました。それが遺体の解剖台だと聞かされると、誰も衝撃を受けるのではないのでしょうか。

フィールドワークを終え大島会館に戻ると、会館前の広場には学生服を着た中学生が大勢いました。尋ねてみると愛媛県の西条東中学校の生徒さんで、先生に引率され社会科見学に来ていたようです。

昼食休憩を摂った後、徳島出身の入所者の方とのカラオケ交流を行いました。入所者協議会の会長・森和男さんの他、大智慶巳さん、東條高さん、西野ミエ子さんと、4名の方が参加して下さいました。皆様年齢を感じさせず矍鑠としておられ、「越後獅子の唄」「千の風になって」など数曲を披露してくれました。



その後、十川さんがコーディネーター役となり、入所者の方との交流会が始まりました。交流会には、香川大学医学部の整形外科の研修生7名が加わっていました。医学研修の一コマで、月に一度は訪問している



そうです。森さん、大智さん、東條さん、西野さん、それぞれ「9歳で島に連れて来られた」「父親から、いい所に連れて行ってやる、と言われ大島に来た」「(籍元制度により)他の患者の包帯を巻いていた」「療養生活を送りながら家庭菜園を楽しんでいる」「(幼少期、島に来るまでは)人を見たら隠れていた」と当時の心境を述懐されました。入所者の方は皆ご高齢であり、入所者数は年々減っているそうです。この日も私たちが島に入っ



てすぐ、入所者の方お一人が他界されたとの訃報が知らされました。

前後しますが、バス中の十川先生の講話で印象に残っているのは、松浦篤男さんの話です。松浦さんは幼少期にハンセン病を患い、十数年の隠遁生活に嫌気がさし、親戚の勧めもあって大島に行くことになりました。大島にやって来て、逆に生の喜びを味わうことができたのです。松浦さんが発病してから厭世的な生活を送っていた時期はちょうど彼の青春期に当たります。その間、全く活字に触れなかったそうです。しかし大島に来て



最前列、向かって右端が講師の十川さん

から勉強し、短歌を詠み、歌集も発表されています。ハンセン病の正しい理解や差別解消を訴え続け、2010年に逝去されました。『霊峰 焼山寺山の影に』は松浦さんの手記、自叙伝ですが、とても文学的で素晴らしい文章で綴られています。また、質疑応答の中で、映画『ベンハー』の話が出されました。『ベンハー』では業病として、日本の長編アニメ『もののけ姫』では癩者として、いずれもハンセン病罹患者は社会から遠ざかった存在として描かれています。

さて約2時間の交流を終え、お別れの挨拶を交わした後、大島会館を後にしました。帰りの船に乗り込

む頃は、もう夕暮れ時となっていました。空は薄暗く寒々としており、行きの船より波が立っていました。船上から見る大島は、恐らく気候の良い季節に訪れるリゾート地とも思えるような綺麗な島でした。今回の研修では、ハンセン病患者に対する忌まわしい記録、謂れのない差別を受けた歴史、人権侵害の歴史を感じ取ることができました。実地研修ということで、やはり本やパンフレットだけでは伝わらないものを多く学びました。



## 『徳島における部落史』の刊行に向けて

徳島における部落史とその解放運動の痕跡を一冊の本として取りまとめるため、現在資料センターでは専門家を交え協議を重ねています。専門家には四国大学経営情報学部の関口准教授、徳島県立博物館の長谷川課長、徳島市立高等学校の生駒教諭をお招きし、資料センターの中野運営委員が中心となって、これまでに5回の協議を行ってきました。発刊へ向けて今後の見通しなど、本誌面上にてお知らせしてゆきます。

### 《事務局からのお知らせ》

- 自治労徳島県本部さま、十川勝幸さま、以上2名の方から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。
- 徳島県ハンセン病支援協会へ入会ご希望の方は、パンフレットを差し上げます。事務局までお立ち寄り下さい。
- 本文中で紹介した松浦篤男著『霊峰焼山寺山の影に』の他、『ふれあい福祉だより第12号2015』、『ザ・テルミー秋号No.408』は、ハンセン病について書かれた記事が記載されています。余部がありますので、無料進呈いたします。ご希望の方は事務局までお立ち寄り下さい。※部数限定

/// 新 着 入 荷 ///

『霊峰焼山寺山の影に』

松浦篤男著, 関西アララギ会, 2009

『ふれあい福祉だより 第12号 2015』

社会福祉法人ふれあい福祉協議会, 2015

『ザ・テルミー 秋号 No.408』

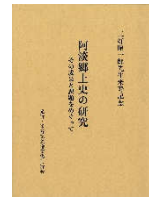
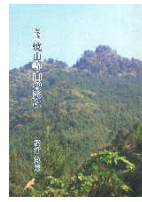
一般財団法人イトテルミー親友会, 2017

『三好昭一郎先生米寿記念 阿波郷土史の研究 -その成果と課題をめぐって-』

三好昭一郎他刊行会会員 13 名著, 三好昭一郎先生米寿記念論集刊行会, 2017

『高知の部落史』

高知県部落史研究会編, 高知県部落史研究会, 2017



■ 告知・案内 ■

◎ パネル展の開催予定

日 時 12月5日(火)～12月13日(水) 10:00～15:00

場 所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

参 加 一般の方誰でも

内 容 ハンセン病に関するパネル  
北條民雄に関するパネル



★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★  
徳島における社会運動・労働運動に関する資料や書籍、また労働組合や会社の周年記念史、会報誌などをお持ちの方で、センターに寄贈したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひセンター事務局までご一報いただきますよう、お願いいたします。




★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

◎ 研究会メンバーの募集

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。

募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

《《 閲 覧 室 の 利 用 案 内 》》

◎ 閲覧コーナー	◎ 検索コーナー	◎ 視聴コーナー
		
書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。	国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。	所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005 / メール roukan@workpia-tokushima.jp

URL <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)